

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0172901233), 法人名 (有限会社 つながり), 事業所名 (グループホーム つながり), 所在地 (旭川市北門町9丁目2644-36), 自己評価作成日 (令和5年11月27日), 評価結果市町村受理日, 令和6年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の向かいには教育大学です。緑豊かな教育大学キャンパスでの散歩。近くの緑道(歩く散歩道)での散歩。自然に触れる生活を大事にしています。また施設近隣に医療機関、保育園、公民館、児童センターそしてスーパー、ドラッグストア、衣料品店、美容室などがあります。地域社会との触れ合いも同時に大切にしております。施設理念「生きていて良かった」のもと「食べることは生きること」「最後までトイレ・・・」「寝たきりにはさせない・・・」に、こだわり、その方の思いや願いに寄り添って生きがいのある生活(人生)の支援をさせていただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022&kani=true&JigyosyoCd=0172901233-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和6年1月25日)

・事業所は旭川市北門地区、教育大キャンパス前の交通、買い物などに至便な住宅街にあり、建物は住宅地に溶け込んだ鉄筋2階建ての建物である。
・職員の介護姿勢は、真摯で利用者・家族の意向の聞き取りに努めており、理念として掲げている「生きていて良かった」を基に食の楽しみ、自力歩行等、支援課題を共有し、本人本位で生きがいのある生活(人生)となるよう取り組んでいる。
・地域とは現在も自粛傾向であるが、通例では事業所名のとおり、地域との相互の協力関係に注力しており、行事への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で連携を深めている。5類への緩和を機に、コロナ感染防止に引き続き留意しながら、地域活動への参加、協力等を再開させるべく、職員間で話し合いを重ねている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの意義を職員全体で確認。施設理念「生きていて良かった」のもと、チームケアを重視し、より良い介護サービスに向けて実践している。	職員間で作成した施設理念が定められており、管理者を中心に申し送りや会議の場で、理念に沿った考え方を共有出来ているか、定期的に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩や戸外に出かけて地域の方と挨拶を交わしたり、旬の野菜や果物の差し入れを頂いたり自然な形で交流。町内会にも加入。	通例では地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、日常的な挨拶や近況報告等、地域近隣住民との関係維持に努めている。	コロナが5類移行後も、地域とは相互に自粛傾向にあり、地域活動への参加、協力等を再開させるべく、職員間で話し合いを重ねている。進展に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の資源回収に協力。散歩時には挨拶を交わしながら、利用者さんを知って頂く。(顔見知り)になる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討或いは勘案事項については、話し合いを継続し深め、サービスの質の向上に努めている。また、行事ごとの感想・意見を頂き次回に向け反映出来るように努力している。	家族、地域代表、行政が参加し、定例で集合型で開催している。運営状況や現状の問題点が論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会、説明会の案内が少ない事もありますが、認定更新時は利用者さんの現状などを伝えながら、連携に努めています。	行政窓口とは、各種の情報交換や地域的な支援体制の問題で連携して役割を担っており、市主催の研修会への参加や、地域高齢者や事業所の状況について、窓口と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲示。拘束しない介護に努めている。ご家族の了承を頂き二名ベッドで抑制を行っている。病院への報告。委員会で報告。	身体拘束、虐待について委員会を設置し、定例で開催している。委員会では、研修の充実、現状の検証を行い、内容について職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、その場で注意し合えるよう、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケア、言葉の暴力も虐待である。の認識のもとに防止に努めている。スタッフ会議での研修報告や、年2回程度の虐待関連の研修を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の対象者はいないが、機会があれば参加したいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当ホームの運営方針、起こりうるリスクも含め説明。ご家族の理解と納得に努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に情報交換をし些細なことでも話せる雰囲気作りにも努めている。意見や要望は職員会議で共有し利用者さんの支援に繋げている。(夏はドライブ・近所の散歩等)	面会は多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、制限の一部解除等、柔軟に対応している。電話や写真を添えたお便りで、生活・健康状態について伝え、意見をj得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを大事にすると共に毎月のスタッフ会議のなかで意見交換やアイデアなどを出す機械を作り運営に反映させている。	日々の申し送りや全体会議の場で、職員が意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者さん・職員との関わりを持ち現状の把握に努め、職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や力量に応じて必要な研修の受講の確保に努めている。その他職員からの希望の研修会への参加にも協力している。会議の中で研修報告を実施しレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にあるグループホームとの交流、情報交換などにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際に出来るだけ、本人の意向を聞き生活状況の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたっての経緯、苦勞されてきたこと、要望などを含めよく傾聴し入居前に施設見学などを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思いや希望を確認し必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い、希望を知る中でそれぞれが活躍できる場の支援をしている。例えば一緒に調理したり食後の片付け、洗濯物の整理など生活の中で信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの為中止していた面会も短時間ではあるが再開している。(体調面や市中の感染状況等をみて判断しています。)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為中止。面会は玄関や居室で短時間でお願ひしています。外出は病院、整骨院等のみとしています。	外出困難であるが、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に支援し、生活歴の把握に努め、電話や手紙の取り次ぎ等で、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調節役になり、気の合う方同士過ごせる場面を設定、座席、食事、散歩等役割活動をする中で支え合える関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたり、退去後も葉書などの交流をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。	職員は、ケア全般において定期的に検証しながら、利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、応えるよう努めている。また、個々の誇りや個性を損なうことのないよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような生活を送ってきたか？今後の生活支援の為に、ご家族や利用者さんのお話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	23・24と同様、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の思いを良く傾聴。ご本人の思いを引き出し毎月のスタッフ会議の中で意見交換をし介護計画に反映できるように努めている。	本人、家族の希望を取り入れ、介護記録、職員によるモニタリングを基にスタッフ会議で検討し、介護計画を作成している。状態の変化があれば、都度見直し、現状に則した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌、個別ケア記録、受診記録、職員の連絡ノート等を活用し情報を共有し、話し合いのもと介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の宿泊時或いは会食事等の場所の提供をしていた。又希望により施設内でのご葬儀等の支援もしていた。コロナ禍のため今後は検討中とさせて頂きます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員が推進委員。美容室に依頼し出張して頂いたり、向かいの大学祭、保育園児の訪問を受けて発表行事に参加させて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院の他、ご家族、ご本人が希望する病院の受診、往診が出来るように支援しています。	かかりつけ医への受診は利用者と家族の意向に応じて支援している。協力医療機関からの助言を受けながら、職員は異変の早期発見に努め、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置(非常勤)その他協力病院とは医療連携をし適切な受診・看護が受けられるように支援している。施設でターミナルを希望された方の訪問介護をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージの防止。可能であれば当施設で生活リハビリが出来るように医療機関、ご家族と相談しながら早期退院の支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を聞きその上で医療機関と相談。ターミナル対応希望書を作成して支援方法の話し合いに活かしている。	契約時にターミナル対応希望書を作成し、同意を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に救急時の対応確認、共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練を2か月に1回実施。水災害訓練も年2回実施。(コロナ禍のため地域、推進委員の方々には中止とさせて頂いています。)	火災を想定した防火訓練を定例で実施している。地域町内会、近隣住民との協力体制、役割も含め、話し合いを行い、暖房器具や非常食等の備蓄も確認しながら、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の思い、願いの把握。プライドを傷つけないようにさりげないケアをしたり、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	職員は日々の接遇や言葉使い、望ましいケアについて職員本位の表現とならぬよう定期的に話し合っている。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に応じた言葉かけを心掛け、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の基本的な1日の流れはあるが、その方のペースを出来るだけ尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわり、(スタイル)の把握。必要な支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事ごとにメニューを工夫。日常的に調理のお手伝い、(果物のカット、野菜のカット)食後の後片付け(食器拭き・お盆拭き・テーブル拭き)等利用者さんの出来ることを実施している。	献立は利用者の希望を取り入れており、季節感・彩りを大切にしている。皆に配膳準備・片付け等をお願いし、楽しみながら力を活かせるよう支援している。行事食、おやつ等で外食気分を楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保が必要な方の支援。トロミや刻み食、ミキサー食、栄養補助剤の活用などで対応している。一人ひとりの摂取量を記録し、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在コロナ対応の為利用者さんの状況に応じて歯科受診している。利用者さんには歯磨きの声掛けや手伝い、入れ歯洗浄消毒の支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にトイレがあり「最後までトイレで！！」にこだわり必要に応じて二人介助の支援をしている。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、水分摂取や運動を取り入れる等、自然な排泄となるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録。水分確保や軽い運動(ラジオ体操他・夏は戸外散歩)等予防対策をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めて、個々にそった支援をしている	個々の好みの湯加減。週2回の火木土ですが体調をみながら2回～3回(便失禁)等臨機応変に対応している。	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。毎日お湯はりしており、事業所都合ではなく、同性介助等、利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地良い眠りの確保に向けて24時間の生活リズム作り。日中の活動と休息を考慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり支援。薬の変更等は連絡ノート等で回覧。個別に服薬綴りがあり職員が閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが力を発揮出来るように裁縫のお手伝いをお願いしたり、洗濯物をたたんで頂いたり…(コロナが落ちつけばコンサートや保育園児との交流も復活したいと思います。)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中から情報を得、事業所前の大学内を散策したり、ご近所を散策したりの支援。(コロナ禍の為自粛…)	緩和後は感染防止に留意しながら、散歩や買い物等、個別対応にて可能な限り、外出が出来るよう支援している。コロナ禍で自粛していた行事等、職員間で再開に向けて話し合っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いのもとその方に応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をする方、携帯電話でする方などその方に応じた支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールに写真を飾ってみたり、ガーデニングの花を咲かせたり、季節の花を配置し楽しめる工夫をしている。	共用スペースは利用者の体感を聞き取りながら、温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った作品が飾られ、明るく清潔で安全な環境作りに留意し、椅子やソファを各所に配置し、好きな場所で自由に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にベンチを置き、外気浴、ガーデニングの花を眺める空間等を楽しめる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具寝具等本人の使用していた物が持ち込まれその方らしい居室となるように努めている。裏に咲いた花を居室に飾って楽しむ方もいます。	馴染みのあるタンスや生活用品、家族写真などが持ち込まれ、自室として落ち着けるよう配慮している。状態の変化では動線の確保を優先し、家族とも相談して家具等の整理を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの状態を考慮して手すりの設置やトイレ入り口にカーテンを設置したり、ベッドや家具などの配置の工夫をし安全な環境作りに努めている。		